

		改善の方策	評価	分析
国語	低学年	<ul style="list-style-type: none"> 音読や劇化などの表現の発表機会を多く設定する。 多くの言葉に触れる機会（言葉集め、読み聞かせ等）を設定する。 	◎	音読や劇化の場を多く設定することができた。また図書の時間を毎週設定し、学校図書館司書の読み聞かせやアニメーションなど、読書活動の充実も図ることができた。
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 各段落の文章の中心となる内容を確認する場面を設定する。自分の考えをもち、グループ交流を行い、友達の考えと比べて思考を深める活動を設定する。（交流活動においてはICT機器を積極的に活用する） 継続的に既習の漢字を活用する機会を設ける。 	○	文章の要点を捉えさせ、内容を確認していくことで、構成を捉えたり視点を絞って読みを進めていくことができた。自分の考えをもつことでグループ交流での発言が増えた。ICTの活用については、4年生は積極的に活用し、意見の交流の場を効果的にもつことができた。3年生は、ICTの活用はまとめて使用したことが多かった。
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の学習において、文章と図や表などの関係を捉えられるように線などで結ぶ等の工夫をする。 ICTの共有機能を用いて、発表相手を意識して文章をまとめる機会を積極的に設ける。 継続的に既習の漢字を活用する機会を設ける。 	○	ICTの共有機能を用いることで、互いの表現を見合い、自己の活動に生かすなど、学び合う活動を増やすことができた。定期的に漢字学習の確認テストを設けることで定着を図ることができた。
社会	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で動画資料を用いるなどの工夫を行うことで、調べることへの興味関心を引き出す。 学習のまとめでは、自分の言葉で学びを振り返っていき、その際、表現方法を選択できるように、複数の表現方法を提示し、選択肢の幅を広げる。 	○	導入を工夫するとともに、単元のゴールを設定し学習計画を立てることができるようになった。一時間単位の課題解決の流れを統一することで、児童の主体性が高まり、まとめの言葉を個人思考することができた。学年の実態によるが、キーワードを掲げることで、まとめの力がついた。
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> 予想から学習計画を立て、教科書やインターネット等の選択した媒体から解決のために必要な情報を精選することができるようにする。 話し合いを通して、問いに対するまとめを考えることができるようにする。 	◎	教科書、資料集に限定した調べ方だけでなく、調べたい問いに対してインターネット資料を活用して必要な情報を選択することができた。友達や全体でキーワードを話し合うことによって、全員が適した問いに対するまとめを作成することができた。
算数	低学年	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を積極的に活用した算数的活動の充実を図る。 考えたことを具体物を用いながら、説明する 	◎	具体物を活用した指導を行ったことにより、考えを深めることができ、意欲的に取り組むことができた。また、交流の場面で考えを自信をもって伝え合うことができた。
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題提示を工夫し、実生活と関連付けて、本時のめあてを設定することで、課題解決型な授業を展開する。 多様な意見を検討することで、深めていく活動を重視する。またAI型教材を活用し、個々の知識理解の定着を図る。 	○	実生活に関連するように教材を提示したり、既存の知識を元にして新しい問題を解いたりできるような課題解決型の授業を展開することができた。また、AI教材のQubenaを使用する時間を増やし、多くの問題に取り組むことができた。
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を引き出すことができるよう学習課題提示の工夫をし、少人数規模で伝え合う活動を設ける。 AI型教材を活用し、児童一人一人にあった課題に取り組み、基礎基本の定着を図る。 	○	実物を提示したり、身近なものに関連する問題を出したりして意欲を湧き立たせた。少人数のコースに分けることで、それぞれのレベルに合わせた学習活動を行うことができた。AI型教材にQubenaを使用し、様々な形式の問題に取り組むこともできた。
理科	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象や実生活を想起させるような導入の工夫を行い、課題解決への意欲を高める。写真や動画教材を活用して理解を深める。 	◎	実生活と結び付けて問題を設定することで、課題解決に向かって意欲的に取り組むことができた。問題と考察のつながりを大切にして考察・まとめを行うようにした。実験の結果から考察するという思考の流れが定着してきている。
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題－予想－実験（観察）－結果－考察－まとめという一連の思考の流れから見通しをもって、課題解決に取り組ませる。 	○	一連の流れを示した活動にすることで、見通しをもち、各活動の目的を意識して活動することができた。
生活	低学年	<ul style="list-style-type: none"> 直接体験の機会を増やし、興味関心を引き出し、思考につなげる。 写真提示などICTを活用する機会を設ける。 	◎	身近なことと関連付けて児童の興味関心を広げることができた。ICTを活用し、写真や動画教材を活用して理解を深められた。また、導入においてICTをもちいて流れを確認することで、課題に対して見通しをもって取り組めた。
音楽	低学年	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に歌ったり、演奏したりして、表現する楽しさを味わわせる。また友達のよい表現を伝え合う機会を設定する。 	○	友達同士の発表や、保護者に向けて発表するなど、表現する機会を多く設定することで、音楽のよさを味わいながら、楽しく表現活動に取り組むことができた。
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に歌ったり、リコーダーの音を合わせたり演奏したりして、表現する楽しさを味わわせる。また友達のよい表現を伝え合う機会を設定する。 	○	歌やリコーダーのグループ発表を通して、表現する楽しさを味わうことができた。また、友達のよさを伝え合うことで、自分の表現を振りかえることにもつながり、学び合う学習活動を展開することができた。
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> teamsやロイロノートを活用し、資料を配布したり、児童の演奏を録画したりして、学習の共有を図る。また友達のよい表現を伝え合う機会を設定する。 	○	ICTを活用し、実際に合奏や合唱を録画し見直すことで改善に生かすことができた。友達のよさを伝え合うことで、自分の表現を振りかえることにもつながり、学び合う学習活動を展開することができた。

図工	低学年	興味関心を引き出すことができるよう、実生活のことを題材に取り入れて、学習展開をしていく。	◎	身の回りの物を題材にすることで、関心をもって取り組むことができた。
	中学年	ロイロノートなどのICT機能を活用し、資料を配布したり、鑑賞を共同編集で行ったりして学習の共有を図る。	◎	指導事項を写真や動画にして共有することで、児童一人一人が自分の学習に応じて活用することができ、個別化を図ることができた。タブレット端末を用いた児童作品の鑑賞は写真を撮影するのが難しく、充実した活動にはできなかった。
	高学年	指導事項を写真や動画にして共有することで、児童一人一人が自分の学習に応じて活用することができ、個別化を図ることができた。また制作の様子を写真で撮ることで、児童の振り返りに役立てることができた。	◎	指導事項を写真や動画にして共有することで、児童一人一人が自分の学習に応じて活用することができ、個別化を図ることができた。タブレット端末を用いた児童作品の鑑賞は写真を撮影するのが難しく、充実した活動にはできなかった。

家庭	高学年	基礎的な行い方を理解するまで、個に応じた支援の充実を図る。日常生活と関連付けた学習課題を設定し、学習に対する興味関心を引き出す。	◎	日常生活で役立つ技能としての実感がもてるよう、ランチマット作成後にそれを使って調理実習した食事をするなどの工夫ができた。
----	-----	--	---	--

体育	低学年	・様々な部位を意図的に動かしたり、運動量の確保を行ったりすることで、十分に体を動かす心地よさを味わわせる。 ・友だちのよいところを見つけ、伝える活動を取り入れる。	◎	場の工夫をすることで、児童が意欲的に活動できた。
	中学年	・運動の楽しさを味わうことができるように学習計画・場の設定をする。 ・動画で自分の動きを振り返り、グループで課題を見つける課題解決型の学習を図る。	◎	運動への接続を意識した準備運動やゲームにつながる運動を行った。リズムの良い曲や簡単な遊びなどを取り入れる工夫を凝らし、誰もが楽しく運動できる学びを目指すことができた。また、ICT機器で自分の運動を動画に撮影したり、作戦ボードとしてチームで操作したり、と効果的に活用することができた。授業の冒頭では振り返りで友達の良いところを見つけていた児童を取り上げ、周知した。その結果、友達の「どこを見ればいいのか」が明確になり自分たちで見つけ伝え合う活動が増えたことが大きな成果。しかし児童にとって苦手・怖いという単元が、楽しい・できたに変えられなかったこともあった。スモールステップを意識して単元計画を立て、個々にあった支援をすることが今後の課題である。
	高学年	・運動の楽しさや喜びを味わうことができるように学習計画・場の設定をする。 ・動画で自分の動きを振り返り、グループで課題を見つける課題解決型の学習を図る。	◎	自分の課題を見つけて解決をする学習を展開することはできた。ICTを活用して動画を見直すことで、自身で課題を発見したり、友達と共有してコツを伝え合ったりと、課題解決に向けてICTを生かすことができた。

外国語	高学年	デジタル教科書を活用し、英語を聞いたり話したりする活動を通して、英語の語句に慣れ親しませ、目的意識をもった言語活動の充実を図る。	○	毎時間デジタル教科書を活用して、動画や音声に慣れ親しむ活動を展開できた。
-----	-----	--	---	--------------------------------------

道徳	低学年	・自分の考えを友だちに伝え合う活動を多く設定する。 ・より考えを深めさせるために、挿絵を掲示する。	◎	役割演技や映像資料を使うことで、自分の考えをもてるようにした。その考えを伝えるために、ワークシート、黒板に記入、再び役割演技など様々な設定をした。それにより、様々な考え方が共有でき、思考を深めることができた。
	中学年	・気付く・考える、話し合う・振り返る・生かすという学習の流れを意識する。 ・グループでの交流活動を行い、友達の考えと比べることを意識づけさせ、多角的・多面的に考えられるようにする。	○	グループ交流を設定することで、自分の考えを伝える機会が増えた。交流後に考えが深まったり、新しい考えにかわったりする場面があり、多様な考えに触れるよさがあった。グループ交流だけでなく、動作化や役割演技、チャートを使った意思表示など、ねらいを達成するために効果的か学習活動を増やしていけるとよい。
	高学年	・学級や児童の実態に応じて、教材を意図的に選択する。 ・話し合いや議論などを通じて道徳的価値と自分との関わりを相互に表現することで、多面的・多角的に考えさせる。	◎	教材を活用して考えたことをもとに、自分の経験を振り返ったり、これからの在り方を考えたりと自己を見つめなおす機会になり、道徳的実践意欲を育むことができた。